

[報 告]

第 34 回高性能シミュレーションに関するワークショップ(WSSP)を開催しました

スーパーコンピューティング研究部 滝沢寛之

東北大学サイバーサイエンスセンターは、ドイツのシュトゥットガルト大学高性能計算センター(HLRS)、学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点(JHPCN)、HPCI コンソーシアムおよび NEC のご協力を得て、2022 年 10 月 24 日(月)～25 日(火)に高性能計算に関する国際ワークショップ「第 34 回 Workshop on Sustained Simulation Performance (WSSP)」を開催しました。本ワークショップは、国際的に活躍している計算科学の研究者及びスーパーコンピュータ設計者を招いて、高性能・高効率大規模科学計算に関する最新の研究成果の情報交換を行うとともに、今後のスーパーコンピュータの研究開発のあり方を議論することを目的としています。

第 34 回 WSSP では技術講演として全部で 22 件の発表があり、日本、ドイツ、サウジアラビアの研究者により、HPC 技術動向、HPC システム評価、アプリケーション開発の幅広い分野のトピックの講演がありました。151 名もの参加登録があり、すべてのセッションで多くの方々にご参加いただきました。

海外からは、HLRS センター長の Michael Resch 氏によるドイツにおける HPC 技術開発と将来展望に関する講演、ドイツ気候計算センター(DKRZ)センター長の Thomas Ludwig 氏による同センター新 HPC システムに関する講演、キング・アブドゥッラー科学技術大学(KAUST)の Hatem Ltaief 氏による行列ベクトル積実装と様々なシステム上での性能評価に関する講演などがありました。

日本からは、神戸大学/理学研究所の坪倉誠氏、京都大学の深沢圭一郎氏、東京大学の加藤千幸氏、大阪大学の伊達進氏、核融合科学研究所の沼波政倫氏、神戸大学の横川三津夫氏に加えて、多数の NEC の技術者が講演を行いました。さらに、主催である東北大学サイバーサイエンスセンターからも、スーパーコンピュータ AOBA の将来展望など合計 3 件の講演を行いました。

今回の WSSP は、新型コロナウイルス感染対策のために聴講者はオンライン参加のみに限定し、講演者と関係者のみが仙台会場で現地参加するというハイブリッド形式での開催となりました。新型コロナ流行後、海外の講演者も含めて仙台会場に集まるのは 2019 年 3 月の第 29 回 WSSP 以来、3 年半ぶりです。今冬も新型コロナ流行の波が来るのは避けられそうにありませんが、次回は以前のように聴講者も含めて現地参加できることを願っています。

第 34 回 WSSP に関するその他の詳細は、以下のページをご覧ください。

<https://www.sc.cc.tohoku.ac.jp/wssp34/ja/index.html>

